

## 一畑薬師ビジターセンター開所式のこと

酒井 董美たまたよし



㊤ 室内展示物の一部

㊦ 開所式上祭壇と後方はビジターセンター

5月11日(日)11時から島根半島四十二浦巡り再発見研究会の標記の企画があり、筆者は、組織の副座長という立場から、除幕の大役を与えられているので、松江市役所の駐車場で落ち合った、事務局長である木幡育夫氏の車に便乗させてもらって、会場に駆けつけた。便乗仲間には幹事である日比谷勝氏もおられた。

幸い当日は天気にも恵まれていたので、外のテントの中で式は行われた。本会の会長でもあり、一畑薬師管長である飯塚大幸氏が導師となり、式典は無事終了した。

この島根半島四十二浦巡り再発見研究会は平成22年3月14日に結成されているので、今年で15周年になる。会員名簿を見ると93名となっている。まさにこじんまりとした団体である。ビジターセンターは、写真でも分かるように二部屋であり、内部もそれなりに展示が行われている。

このような開所式であるが、来賓には亀井亜紀子衆議院議員をはじめ、飯塚俊之出雲市長、上定昭仁松江市長(ジオパーク推進協議会会長)ほかの行政関係者も見られたのは、ちよつと不思議だと思ったのが率直な筆者の感想である。

これも島根半島四十二浦巡りという、江戸時代から続く当地の信仰習俗を大切にしている研究会への敬意と、式場が一畑薬師というよく知られた古刹であることと事務局の努力とも相まって、歴々

の方が認識され、開所式出席の実現に至ったのだろうか、筆者などは考えている。開所式は貴谷麻以氏(元松江市議会議員)の司会で、来賓の方々の祝辞の後、会員である遠藤睦子氏の華麗な歌唱と演舞を楽しませてもらって無事終了した、

室内には筆者の提供した出雲地方の民話「初夢長者」「大歳の火」「天人女房」「炭焼き小次郎」など10話も福本隆男氏のイラストとともに展示されている。いずれ原話の語りの音声もスイッチ一つで聴けるようにしている。

この作業については、カセットテープに入れた音源を、すでにVLC社に渡しているので、そろそろ出来上がる頃かと思われる。会場にセットすることで、元の語りが聴けるようになる。素晴らしい時代になったものだと思う筆者なのである。